

「末吉小学校の棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

曾於市立末吉小学校

2 学年・人数

5年生 83人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和3年10月～11月 末吉小学校体育館（南部公民館）

(2) 発表の日時・場所

令和3年11月6日（土） 末吉小学校秋季大運動会

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事、伝統工芸品について

(1) 名称

川内棒踊り（かわちぼうおどり）

(2) 由来

「川内棒踊り」は、島津義弘公の朝鮮の役の連勝記念や、関ヶ原の戦いで兵士の士気を高めるために始まった棒踊りを、昭和の初めに南之郷池ン坊から伝えられたといわれている。川内地区に伝わる棒踊りを復活させたいと願われ、青年団等を中心に伝承されてきた。

(3) 構成等

この踊りは、6人1組で、2組ずつ三尺木剣と六尺棒を打ち合わせて踊る。その周りに「山」と呼ばれる人が、木を地面に打ちつけながら立つ。

5 保存会や地域との連携の具体

17年前から、地域の「川内棒踊り保存会」の全面的な支援の下、本校に「川内棒踊り同好会」を発足させ、棒踊りを川内地区全体の郷土芸能として正式に位置付けた。これにより、会員でもある児童を中心に地域ぐるみで棒踊りを伝承していく体制が整った。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら棒踊りを継承していくために、毎年秋季大運動会で、川内棒踊りを披露している。今後も継続して地域と連携して棒踊りを伝承していける体制を整えた。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



南部公民館での事前練習



保存会のメンバーによる熱い御指導



事前練習



秋季大運動会での発表

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【5年生児童】

- ・ 歌を担当したが、かけ声のタイミングや歌の出だしが難しかった。保存会の方が、声の高さや速さをアドバイスしてくださって上手に歌うことができた。また、運動会の本番で、「がんばって。」と声をかけてくださった。緊張がほぐれて思い通りに歌うことができた。
- ・ 踊りが難しくて、昼休みや家でも練習した。保存会の方が、「やさしくたたきなさい。」「リズムをとって。」と教えてくださって、上手に踊れるようになった。運動会では大きな拍手をもらってうれしかった。
- ・ 昔から伝わる川内棒踊りを、保存会の方が大切にしているのだなと思った。わたしたちも伝統を受け継ぎたいと思った。

【教職員】

- ・ 棒踊りの練習を始める前から、繰り返し踊りの動画を見ており、子供たちは独特の歌や迫力のある動きに興味をもっていた。実際の練習が始まると大変熱心に取り組んだ。川内棒踊りの歴史について学んだり、保存会の方々の話を聞いたりすることで、更に意欲が高まった。ふるさとの郷土芸能である棒踊りを通して、生まれ育っている地域への誇りを育むことにつながった。

【保存会から】

- ・ 地域を挙げて棒踊りを伝承していこうとする機運が高まってきている。放課後や休日の練習にもかかわらず、担当教諭が毎回参加し、自主的に棒踊りを覚え、子供に指導している。踊りの発表機会を増やすため、曾於市民祭に参加予定である。

【地域の方から】

- ・ 毎年、秋季大運動会で、5年生が、取り組んでいる姿を見て、感動します。今年は、雨の中での開催ではありましたが、子供たちの本気の姿に伝統を守りたいという熱意が伝わってきました。また、踊った子供たちが、大人になって、次の世代に伝えていくきっかけになったらいいなと思います。